

NIエวิร์クシート  
／小学校高学年／高校／社会、学活、総合

感染者にリボンで共感 記事

名前

新型コロナウイルスの感染者が急増する中、感染者や医療関係者らへの差別・偏見をなくすことを目指す「シトラスリボンプロジェクト」の取り組みが、加古川市をはじめ兵庫県内でも広がっている。感染からの回復後に「ただいま、おかえり

つて言いあえるまちに」を合言葉に、愛媛県の市民グループが始めた活動。兵庫県内の学校や企業なども、共感を示す三つ輪が重なる黄緑色のリボンを付けたり、イラストを掲げたりしている。  
(斉藤正志)

# 感染者にリボンで共感

## コロナ差別解消の印、かばんや名札に



シトラスリボンを作り、全校児童に配った加古川市立野口南小学校の6年生。同市野口町古大内

### 県内 学校や企業で活動広がる

同プロジェクトは松山(松山市)准教授の甲斐朋香さん(50)ら6人のグループ「ちよびつと19+」が4月、愛媛県内で感染者が出たことをきっかけに始め、全国に広がった。シンボルとなるリボンの三つの輪は、「地域」「家庭」「職場・学校」を示す。「感染したり濃厚接触者になつたりした人がいても、登校できた時は『ただいま』『おかえり』と言える学校をつくりましょう」

同プロジェクトは松山(松山市)准教授の甲斐朋香さん(50)ら6人のグループ「ちよびつと19+」が4月、愛媛県内で感染者が出たことをきっかけに始め、全国に広がった。シンボルとなるリボンの三つの輪は、「地域」「家庭」「職場・学校」を示す。「感染したり濃厚接触者になつたりした人がいても、登校できた時は『ただいま』『おかえり』と言える学校をつくりましょう」

### 元の生活 安心して戻れるように

「3月に愛媛県内で初めて感染者が確認され、個人を特定しようとしたり、SNS(会員制交流サイト)でその人の行動を批判したりする動きがあった。回復しても、元の生活に戻りづらくなった。冷たい目で見られて、いると感している人が、安心して暮らしていけるように」と話す。

#### 発案の甲斐さん



「それが全国に広がった。」「兵庫や京都、沖縄、静岡など、各地からの問い合わせが300件を超えた。こんなに広がるとは想像もしていなかった。同じように偏見をなくしたいと思っている人が多かったのだと感じる」

## 回復後「ただいま、おかえり」合言葉

「ただいま、おかえり」合言葉

児童731人分のリボンを作るへの配食サービスを手掛けた。児童はランドセルに「ウェル」(神戸市中央区中島通)は、従業員が名刺にリボンを付け、配達用バイクにもリボンの絵をあしらったシートを貼っている。業務部長の京原幸さん(47)が7月に発案。取引先医療機関に出入りしている別の会社の従業員が感染し、退職を余儀なくされたことを聞いたことがきっかけだ